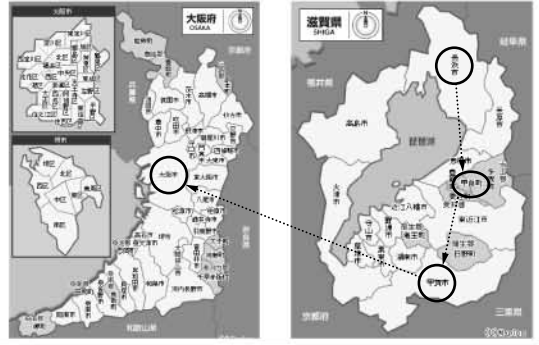


議員研修.....

滋賀・大阪へ

H22年8月22日～24日



黒壁を生かしたまちづくり

滋賀県長浜市

この町は琵琶湖の北部に位置し、歴史上でも戦国時代1575（天正3）年、天下統一を目指した信長から戦功のあった秀吉が浅井氏の領地の大半と小谷城を与えられ、初めて城持ちの大名となった地として有名です。

なかでも長浜の町を南北に貫く北国街道沿いは江戸時代から昭和末期まで商業の町としてにぎわっていたのですが、昨今の時代の流れから郊外に三つの大規模店舗が進出して来た後は、客数が激減し店をたたむ業者があとを絶たなかったそうです。

こうした商店街の危機的状況を乗り切ろうと、地元有志たちが立ちあがったきっかけは、明治以来、町の中心地の一角にあった「黒壁銀行」の愛称で親しまれてきた建物の解体にあったと云われています。

市民間に黒壁を残そう、この地に息づく文化遺産を未来へ守り生かそうという気運が高まり、昭和63年、第3セクター「黒壁」が誕生し、江戸時代の面影を残す古い街並みを生かしたまちづくりが始まったそうです。

いまでは町の中核となっているのが「黒壁銀行」の建物を修復してできた「黒壁ガラス館」です。

歴史上の有名な人物がいる歴史ある町に、何故「ガラス館」なのか？歴史ある町ならば観光客向けに「黒壁銀行」を「歴史博物館」とか「歴史資料館」への再利用を考えるのが普通で、そういった意見も当然あったそうですが、博物館、資料館は一度見たら、二度、三度の来町は期待できない。歴史が刻まれた蔵や民家をガラス工房やショップ、カフェとして再生した街並み

こそ長浜の売りになるといった「黒壁」スタッフ・リーダー山崎さんの説明に感心するばかりでした。

20年前は1時間に4人程度しか通行していなかった商店街を今では年間180万人の大勢の観光客が楽しげに行き交っています。

戦国時代に鉄砲、江戸時代

には浜ちりめんやビロードの製造を始めた長浜市民の進取の気性が、今もこの町を生き生きとさせています。

古いまち並みと、オシャレなお店が見事に調和した、また行きたくなる町でした。

広報常任委員長

西村 将伸



黒壁1号館はガラス工房